

原著：秋田大学医短紀要 8：23-29, 2000.

学校種別にみた看護学生の看護に対するイメージについて (3)  
—縦断的方法による検討—

Comparative Study of the Image of Nursing in Students' Mind  
among Various Educational Institutions (3)  
: Study with the Longitudinal Method

石井 範子\* 平元 泉\* 平 むつ子\*\*  
小林 明子\*\*\* 堀井 雅美\*\*\*\*

Noriko ISHI\* Izumi HIRAMOTO\* Mutsuko TAIRA\*\*  
Akiko KOBAYASHI\*\*\* Masami HORII\*\*\*\*

## I. はじめに

日本の教育機関における看護教育は、欧米諸国より約50年遅れて開始されているが、時代の変遷とともにレベルの向上が図られている。看護教育の教育機関は、大学・短期大学・専修学校（3年課程・2年課程）など多様であるが、とくに近年、医療技術の進歩、疾病構造の変化、人々の高学歴化に対応するため、大学化・短大化が急速に進められている。1980年代の報告<sup>1)2)</sup>によれば、看護学専攻の大学生や短期大学生は専修学校生に比べて看護職志向が明確でないとされているが、学生の看護に対する意識や態度も変わってきているのではないかと考えられる。そこで、我々はこれまで短大および専

修学校3年・2年課程の学生の入学直後・実習前・卒業時の看護に対するイメージを学校種別に比較し検討してきた<sup>3)4)5)</sup>。今回は、縦断的な調査により入学直後・実習前・卒業時の学校の種類によるイメージの違い（以下、学校種別の比較）、および各学校でのイメージの変化の仕方（以下、学習段階別の比較）を検討した。

## II. 方法

1. 対象：研究の主旨に同意した平成8年度入学のA大学医療技術短期大学部看護学科学生（以下、短大生）で入学時84名・実習前82名・卒業時72名、B看護学院3年課程学生（以下、専修3年）で入学時55名・実習前54名・卒業時

秋田大学医療技術短期大学部

\*看護学科

\*\*秋田県立衛生看護学院

\*\*\*中通高等看護学院

\*\*\*\*秋田県福祉保健部医務薬事課

Key Words：看護イメージ

看護学生

学校の種類

縦断的方法

## (24) 学校種別にみた看護学生の看護に対するイメージについて (1) - 縦断的方法による検討 -

53名, C看護学院2年課程学生(以下, 専修2年)で入学時45名・実習前44名・卒業時42名である。

2. 調査方法: 20尺度を設定したSD法によるイメージ測定を, 入学直後, 基礎看護学以外の一連の看護学実習の開始前, および卒業時に一斉回答方式で実施した。

## 3. 分析方法:

①SD法によるイメージ測定は各尺度で, 好意度が高くなるほど評定値が小さくなるよう7段階評定法とし, 学校種別に各学習段階の平均値, 標準偏差を算出し, 学校種別に分散分析・多重比較を行った。

②学習段階別の平均値を学校毎に分散分析・多重比較により学校毎に比較した。

③20尺度についてバリマックス法により因子分析を行い因子を抽出し命名した。

④各校の各学習段階の因子得点の平均値, 標準偏差を算出し, 分散分析・多重比較を行った。(好意度が高くなるほど評定値が小さくなるよ

うイメージを評定している)ので, 因子得点が低いほどポジティブな意味付けとなる。)

## III. 結 果

## 1. 学校種別の看護に対するイメージの比較 (図1)

## 1) 入学時の学校種別の比較

イメージプロフィールは「自由な」以外で, 3校とも全体的に左寄りの好意的イメージであった。「労が多い」の1項目で有意差がみられ, 専修2年が他の2校より平均評定値が高かった。その他の19項目では3校間に有意な差はみられなかった。

## 2) 実習前の学校種別の比較

3校とも左寄りの好意的なイメージのプロフィールであったが, 短大生が最も左寄りで, 「明るい・活気のある」で他の2校より, 「若々しい・好きな」で専修3年より, 「価値のある」で専修2年より, 有意に好意度の高いイメージであった。短大生・専修3年は, 専修2年より

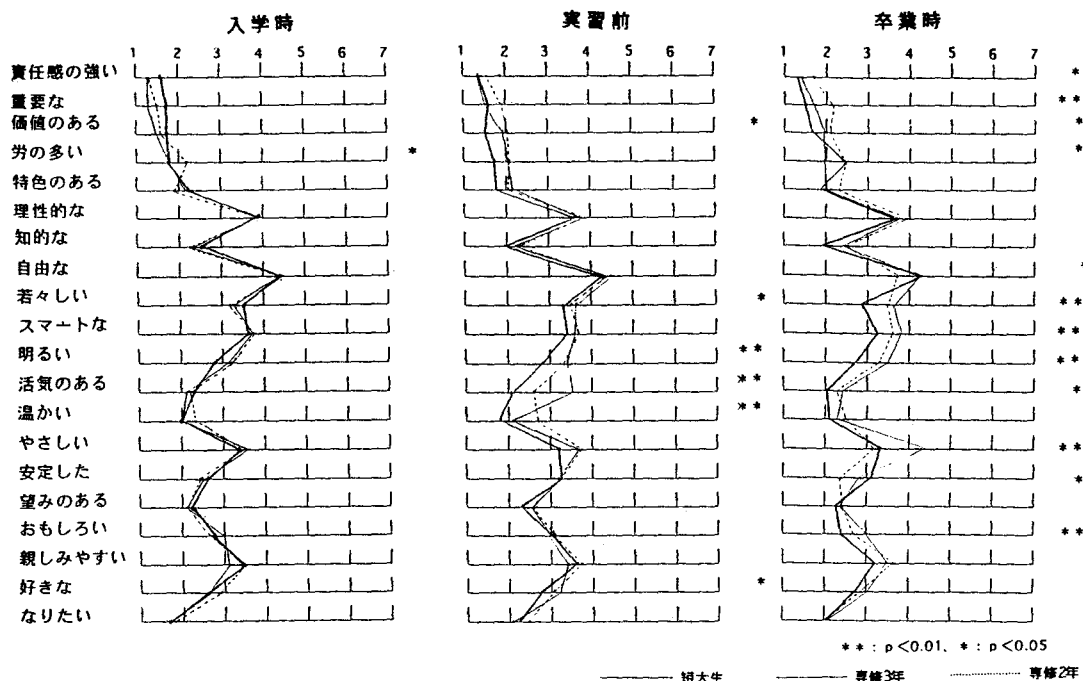


図1 学校種別の看護イメージの比較

有意に「温かい」とみている。

### 3) 卒業時の学校種別の比較

「自由な」以外で、3校とも左寄りの好意的なイメージのプロフィールであったが、短大生が最も左寄りで、「若々しい・スマートな・明るい」で他の2校より、「活気のある・面白い」で専修3年より、「責任感の強い・重要な・価値のある」で専修2年より有意に好意度の高いイメージであった。短大生・専修2年は、専修3年より有意に「やさしい」とみており、専修3年は短大生・専修2年より有意に「労の多い」とみており ( $p < 0.05$ )、専修2年は短大生より「自由な・安定した」とみている。

## 2. 学習段階別の看護に対するイメージの比較

(図2)

### 1) 短大生の学習段階別比較

「自由な」以外の全てで左よりの好イメージであり、卒業時で最も左寄りの項目が多くみられた。三つの学習段階間の比較では8項目に差が

みられ、卒業時は「若々しい・スマートな」で入学時より、「面白い」で実習前より有意に高い好意度であったが「労の多い」で入学時と実習前より低かった。入学時は「なりたいたい」で実習前より、「安定した」で実習前と卒業時より好意度が高く、「特色がある・知的な」で実習前と卒業時より低い好意度であった。

### 2) 専修3年の学習段階別比較

「自由な」で全体が、「やさしい」で卒業時が右寄りであった以外は左寄りであり、入学時が最も左寄りの項目が多く好イメージであった。学習段階間の比較では5項目に差がみられ、入学時は「安定した・好きな・望みのある」で実習前より、「価値のある・明るい」で実習前と卒業時より有意に高い好意度であった。実習前と卒業時はほぼ同様のイメージで、有意な差はみられず、また、両者とも入学時より好意度の高い項目はなかった。

### 3) 専修2年の学習段階別比較

入学時と実習前が「自由な」で右寄りであっ

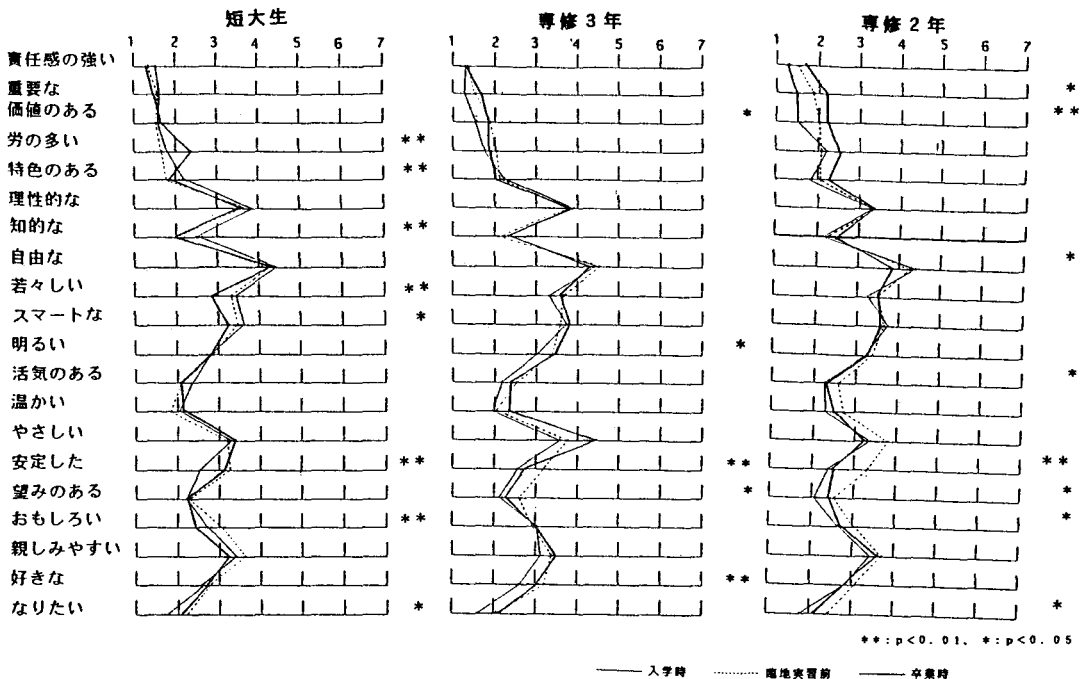


図2 学習段階別の看護イメージの比較

(26) 学校種別にみた看護学生の看護に対するイメージについて (1) - 縦断的方法による検討 -

表1 看護に対するイメージの因子構造

| 因 子<br>項 目    |          | F 1         | F 2          | F 3           | F 4          | F 5          |
|---------------|----------|-------------|--------------|---------------|--------------|--------------|
|               |          | 看護の<br>価値因子 | 看護就労<br>希望因子 | 看護婦の<br>快活性因子 | 看護の安<br>定性因子 | 看護の労<br>働性因子 |
| 重要な           | - 重要でない  | 0.698       | 0.057        | 0.054         | -0.018       | 0.016        |
| 責任感の強い        | - 無責任感な  | 0.666       | 0.088        | 0.057         | -0.003       | -0.014       |
| 価値のある         | - 価値のない  | 0.463       | 0.183        | 0.249         | 0.231        | 0.110        |
| 温かい           | - 冷たい    | 0.445       | 0.179        | 0.159         | 0.428        | -0.308       |
| 特色のある         | - 特色のない  | 0.437       | 0.145        | 0.350         | 0.338        | 0.133        |
| 知的な           | - 知的でない  | 0.434       | 0.088        | 0.404         | 0.113        | -0.073       |
| なりたい          | - なりたくない | 0.234       | 0.638        | 0.090         | 0.203        | -0.232       |
| 面白い           | - つまらない  | 0.074       | 0.601        | 0.294         | 0.260        | -0.040       |
| 好きな           | - 嫌いな    | 0.127       | 0.564        | 0.233         | 0.107        | -0.195       |
| 若々しい          | - 年寄りじみた | 0.049       | 0.130        | 0.473         | -0.039       | -0.045       |
| 活気のある         | - 活気のない  | 0.144       | 0.299        | 0.446         | 0.260        | -0.040       |
| 明るい           | - 暗い     | 0.080       | 0.098        | 0.440         | 0.242        | -0.338       |
| スマートな         | - やぼな    | 0.081       | 0.118        | 0.344         | 0.018        | -0.127       |
| 望みのある         | - 望みのない  | 0.344       | 0.404        | 0.164         | 0.507        | -0.152       |
| 理性的な          | - 感情的な   | 0.034       | -0.002       | 0.189         | -0.282       | -0.004       |
| 安定した          | - 不安定な   | 0.026       | 0.065        | 0.094         | 0.270        | -0.032       |
| やさしい          | - きびしい   | 0.120       | 0.029        | 0.076         | 0.163        | -0.451       |
| 労の多い          | - 楽な     | 0.194       | -0.262       | -0.021        | 0.117        | 0.353        |
| 自由な           | - きゅうくつな | -0.117      | 0.098        | 0.060         | -0.009       | -0.352       |
| 親しみやすい        | - 親しみにくい | 0.143       | 0.109        | 0.258         | -0.001       | -0.271       |
| 寄 与 率 (%)     |          | 19.2        | 14.9         | 13.3          | 9.4          | 8.6          |
| 累 積 寄 与 率 (%) |          | 19.2        | 34.1         | 47.4          | 56.8         | 65.4         |

たが、全体的に左寄りの好イメージで、入学時で最も左寄りの項目が多くみられた。学習段階間の比較では8項目に差がみられ、入学時は「活気のある・望みのある・面白い・なりたい」で実習前より、「価値のある」で卒業時より、「重要な」で実習前と卒業時より有意に高い好意度であった。「自由な」の1項目で卒業時が入学時より好イメージであった。入学時と卒業時の二者は「安定した」で実習前より有意に高い好意度であった。

### 3. 看護に対するイメージの因子構造と因子得点の比較

累積寄与率65.4%で5因子が抽出され命名した。第1因子は「重要な・責任感の強い・価値のある」等の6項目からなる『看護の価値因子』、第2因子は「なりたい・面白い・好きな」の3項目からなる『看護就労希望因子』、第3因子は「若々しい・活気のある・明るい」等の4項目からなる『看護婦の快活性因子』、第4因子は「望みのある・理性的な・安定した」等の3項目からなる『看護の安定性因子』、第5因子は「やさしい・労の多い・自由な」等の4項目からなる『看護の労働性因子』であった(表1)。

因子得点を比較すると、3因子で有意差がみられた。第1因子の『看護の価値因子』で「専修3年入学時・短大実習前」が「専修2年卒業

時」より低かった。第3因子の『看護婦の快活性因子』では、「短大入学時・専修3年入学時・専修3年実習前・専修2年実習前・専修3年卒業時・専修2年卒業時」の6群より低かった。第4因子の『看護の安定性因子』では、「短大入学時」が「短大卒業時」より低かった(表2)。

## IV. 考 察

### 1. 学校の種類によるイメージの違い

学校種別の比較では入学時は3校共ほぼ同様のイメージであった。しかし、実習前では6項目に差がみられ、いずれも短大生が他より高い好意度であり、卒業時では差のあった12項目中9項目で短大生が専修3・2年より高い好意度であった。このように学校種別の比較では、看護学の学習をしてからは短大生が他より好イメージであることが明らかになった。専修3年は短大生と同様の背景で入学し、教育課程もほぼ同じであるが、看護イメージの変容の仕方は短大生とは異なり明らかに好意度の低いイメージであった。短期大学と専修学校という教育背景の違いが要因の一つではないかと考えられ、違いについての検討が必要であるといえる。専修2年も入学後は短大生より明らかに好意度の低いイメージであった。

表2 因子得点の比較

表2 因子得点の比較

( ) : F値

| 因子          | F 1          | F 2          | F 3          | F 4          | F 5          |
|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| クラス         | 看護の価値因子      | 看護就労希望因子     | 看護婦の快活性因子    | 看護の安定性因子     | 看護の労働性因子     |
| 短大入学時 84名   | 0.113±1.130  | -0.112±0.985 | 0.073±1.006  | -0.333±0.990 | -0.065±0.979 |
| 専修3年入学時 55名 | -0.233±1.094 | -0.026±1.072 | 0.081±0.874  | -0.252±1.016 | -0.003±1.047 |
| 専修2年入学時 45名 | -0.102±0.796 | -0.172±0.827 | 0.081±0.874  | -0.189±1.026 | 0.104±1.210  |
| 短大実習前 82名   | -0.260±0.858 | 0.228±1.053  | -0.268±1.027 | -0.002±0.961 | -0.034±0.920 |
| 専修3年実習前 54名 | -0.114±0.816 | 0.211±1.098  | 0.310±0.764  | 0.323±1.036  | 0.043±1.019  |
| 専修2年実習前 44名 | 0.228±1.132  | 0.206±0.973  | 0.186±0.998  | 0.298±1.010  | 0.148±0.845  |
| 短大卒業時 72名   | -0.044±0.706 | -0.198±0.981 | -0.584±0.96  | 0.294±0.872  | -0.108±1.052 |
| 専修3年卒業時 53名 | 0.032±0.848  | 0.014±1.013  | 0.318±0.86   | 0.033±1.029  | 0.323±0.906  |
| 専修2年卒業時 42名 | 0.643±1.386  | -0.183±0.808 | 0.158±0.80   | -0.091±0.883 | -0.357±0.965 |

\*\* : P<0.01, \* : P<0.05

## (28) 学校種別にみた看護学生の看護に対するイメージについて(1) 縦断的方法による検討

## 2. 各学校でのイメージの変化の仕方

学習段階別比較でも学習の進行に伴って短大生は好意度の高い方向に、専修3・2年は好意度の低い方向に変化している。「1年次より2年次の学生の方がイメージが後退し、臨床実習を体験した3年次で再度好意的な方向に変化する」という報告<sup>6)7)</sup>があり、“理想的・観念的イメージがより現実的・具体的な実像方向に修正された”と解釈されている。これは、本調査の短大生の場合と類似している。

我々がかつて今回と同じ学校の卒業期の学生に横断的に実施した調査<sup>8)</sup>でも、入学時にくらべての看護イメージの主観的な変化が、ポジティブな方向であるという学生が短大生と専修3年では多数であったのに対し専修2年は少数であった。入学前の准看護婦養成課程における学習や経験からイメージが具体的でしかも固定化し、他の2校の学生より、看護学校に進学してからのポジティブな方向への変化は少なかったものと推測される。専修2年は既に准看教育を受けてはいるものの、短大や専修3年の学生と同年代の青年期の学生がほとんどであることから、近い将来就くであろう看護職に対して、さらにポジティブにイメージの変容が図られるような教育が必要であるといえよう。

入学から卒業までの間の看護イメージの変化には、その学校の教育理念や教育課程・学生生活の特徴・教師や実習指導者の関わりなどの諸因子が影響しているものと察せられる。今後、それらの影響因子について明確にする必要性のあることが示唆されたと考える。

## 3. 因子得点からみたイメージの特徴

『看護の価値因子』で「専修2年卒業時」が「専修3年入学時・短大実習前」より因子得点が高かった。本報では因子得点が低得点であるほどポジティブな意味づけとなるようにしているので、「専修2年卒業時」は、他の教育課程の看護教育を受ける前や本格的な実習を体験する前の学生より看護に対する価値・重要性・責任等の意識が低いと解釈される。准看教育・看護助手や准看護婦としての何らかの経験・専修学校2年課程の看護教育等で現実を直視したこ

とが影響していると察せられるが、それらの要因についてさらに追究する必要があるものと考えられる。

『看護婦の快活性因子』では、「短大卒業時」が他より低かった。すなわち、看護婦を「若々しく活気があり、明るい」とみており、実習中に接触した看護婦から受けた印象が快的・活動的であったものと察せられる。

『看護の安定性因子』では、「短大入学時」が「短大卒業時」より低く、短大生は看護という職業の望み・安定性を強く意識して入学していることがうかがえる。

## V. 結 論

短大、専修学校3年課程・2年課程の3種類の学校の学生について入学時・実習前・卒業時に縦断的に実施した看護に対するイメージの調査から以下の結論が得られた。

1. 学校種別の比較では、入学時は3校共ほぼ同様のイメージであったが、実習前・卒業時では短大生が他の2校より有意に好意度の高い項目が多かった。

2. 学校毎の比較で、短大生は卒業時が、専修3年と専修2年は入学時が、好意度の高い項目が多かった。

3. 因子分析で5因子が抽出され、それらは『看護の価値因子』、『看護就労因子』、『看護の労働性因子』、『看護の安定性因子』、『看護婦の快活性因子』であった。

4. 因子得点の平均値は『看護の価値因子』で専修3年入学時と短大実習前が、『看護婦の快活性因子』で短大卒業時が、『看護の安定性因子』で短大入学時が低かった。

## VI. おわりに

本調査は、入学までの背景や教育課程がほぼ同様の短大と専修学校3年課程、および准看教育を終えた2年課程の学生を対象とした看護イメージの調査である。専修2年は他の2校と教育課程において異なる部分があるものの、看護職を養成するという根本の目標に違いはない。各学習段階の看護に対するイメージを学校の種

類の違いから検討し、実際の教育に反映させる必要があるものと考えている。今回の調査は対象が1校ずつであり、学校の種類の特徴として一般化はできないので、今後、四年制大学も含めて対象を増やし検討を続けていきたいと考えている。

## VII. 引用文献

- 1) 西 幸子, 島村忠義, 村上美好他: 日本の看護学生と教育像(その1) - 全国の看護学校の種別による比較を中心として -, 第11回日本看護学会集録(看護教育分科会): 12-19, 1980.
- 2) 石塚百合子, 白佐俊憲, 木村泰子, 水谷一郎: 看護婦イメージの研究, 看護教育, 23(7): 446-453, 1982.
- 3) 石井範子, 平元 泉, 平むつ子, 小林明子他: 学校種別にみた看護学生の看護に対するイメージについて(1) - 入学時の検討 -, 秋田大学医療技術短期大学部紀要7: 117-121, 1999.
- 4) 平元 泉, 石井範子, 平むつ子, 小林明子他: 学校種別にみた看護学生の看護に対するイメージについて(2) - 入学動機および学生の背景別の比較 -, 秋田大学医療技術短期大学部紀要7: 123-130, 1999.
- 5) 石井範子, 平元 泉, 平むつ子, 小林明子: 学校種別にみた看護学生の看護に対するイメージの変化, 日本看護研究学会雑誌, 22: 245, 1999.
- 6) 謝花美佐子, 平良広子, 安里栄子他: 看護学生の看護婦イメージの学年別による検討 - 動機と意思との関連性 -, 看護教育25: 89-94, 1984.
- 7) 波多野梗子, 小野寺杜紀, 森田チエコ: 看護学生の学習および看護職に対する態度の発達的变化, 看護教育23: 513-520, 1982.
- 8) 石井範子, 平元 泉, 志賀令明, 堀井雅美他: 看護学生の卒業時の看護に対するイメージについて - 学生の学校種別の比較 -, 秋田大学医療技術短期大学部紀要6: 77-85, 1998.